

あらすじ 200 字

主人公ひでは貧乏な会社員。MMORPG ゲームに没頭、給料から課金していた。
社長が率いる敵国の帝国が強大化し、最強廃課金クランに殺される日々。
ある日、ゲーム内でいじめが起き、ひでは怒りのあまり、切れてしまう。
その後、ゲームそのものが資金難で終わりを迎えることが発覚。
ひでは終わるのか、それとも、一矢報いることができるのか。
実話をベースに作成された、現在の E スポーツの始まりを描いたストーリー。

完結までの 11 万文字の脚本と、舞台設計画、絵コンテ 20 枚が完成済。最初の 1 割を公開。

なぜ 1 割か？本当に究極のストーリーがあったとして、
始めの 1 割を読めば、面白いはずだから。始めの 1 割で判断できる。

【登場人物】 現実での氏名・年齢は全員不詳

主人公ひで・・・貧乏な会社員。MMORPG ゲームに給料の 2 割を課金し毎日のめりこんでいる。
社長・・・建設設計会社社長。前の帝国指揮官から引き継いでゲームを開始した初心者。
秘書・・・社長の会社の筆頭秘書。多言語に精通し内装デザインも担当。ゲーム初心者。
マサ(エース)・・・王国から帝国へ移住した廃課金者。
ワタリ・・・王国から帝国へ移住した。禁じられている現金でのアイテム販売(リアルマネートレード)を行っている噂。
ミラ・・・最強の廃課金装備の盾。ゲーム運営会社と内通しガチャで不正な操作をしているなどの噂がたつほど。
運営ちゃん・・・ゲーム運営会社のアルバイト。外国人。
ヒカリン・・・廃課金している都内の OL。愛人だ、貢がれているなどの妬みも多い。
ぶー・・・勝利にはこだわらず、チャットを多用しゲーム内をふらふらしている。直結野郎と陰口をたたかれている。
ポリー・・・王国指揮官、進学校の中学生。勝率が高い。妬みからネット掲示板に「学校いけ、勉強しろ」と批判される。
キド・・・王国クランのらねこ団のマスター。夜勤のある仕事をしている。恐妻家。
マユ・・・キドの現実世界での妻。強妻。
やま・・・現実では大阪の寺の僧侶。うるさい。愛車は bmw m3 クーペ
ケン・・・現実では工場勤務。彼女と同棲中。ゲームに廃課金し光る剣を所有。
レイア・・・現実では高校生。母子家庭。絵を描くのが好き。

ゲーム画面でキャラの使用するジェスチャーは

Ｊ土下座・Ｊガッツポーズ・Ｊ拍手の3つのみ。

編集の都合上、柱の上に * * 赤字 * * で目次を付けてあります。

* 脚本開始 * * @帝国城 *

○ゲーム内・帝国城内・私室(夜)

豪華な内装の部屋で秘書がクレリックの装備で化粧台を使ってメイクをしている。

頭に王冠を付けた帝国指揮官の「社長」は外の見晴らし台から戦争を見ている。

秘書「今度の温泉旅行は？」

秘書は椅子から立ち上がると見晴らし台へ向かう。

秘書「初日で勝つのは無理だって」

社長は見晴らし台から王国と帝国の戦闘を見ている。

社長(帝国指揮官)「わが帝国は守りやすい地形だ。なのに！」

秘書は見晴らし台へ出る。空に広がる円形のゲート。

秘書(クレリック)「戦争がなんで起きるか知ってる？」

社長「我が帝国は押し負けている。なぜだ？」

遠くから帝国軍が退却して帰ってくるの見える。

秘書(クレリック)「はあ」

秘書は見晴らし台に立つ社長の背後に近づく。

秘書「地形までは調べてない」

社長「あの光っている盾をなぜ助けない、もう、見るからに廃課金だ。絶対強いぞ」

全身に光る防具を付けた帝国の盾兵が、王国軍に囲まれて攻撃されている。

社長の背後の秘書が聖杖を長い剣に持ち替える。

秘書は社長の背中から長い剣を突き刺す。

秘書「無視しないでよ」

社長の胸から長い剣が突き出る。

社長「ごめん、何？」

社長は振り返ると J(ジェスチャー) 土下座する。

秘書「王国民なら殺せるのに」

社長「帝国民同士では殺せないよ、知ってるでしょ」

秘書「あの盾はね、ミラ。岩石。パーティに入らない。クラン加入も拒否、だから周りが助けられない」

社長「あの鎧が完成する確率は・・・1 万分の 1 か、いや待て」

社長は秘書を押しつけ部屋から出ていく。

秘書「ずるしてるって。ウワサ。運営のお気に入りで、確率を操作して」

社長は部屋の出口で立ち止まる。

社長「温泉はあと、直接見に行く」

秘書はまた化粧台の椅子に座る。

○ゲーム内・帝国城外・橋(夜) * *

王国軍が帝国軍を押ししていく、城へ逃走していく帝国軍。

帝国城が橋の向こうに見える。王国軍は帝国城前の橋の入口へさしかかる。

帝国城の門が閉められていて、残された帝国兵は門の前で逃げ火(課金アイテム)を使用する。

マサ(王国軍戦士)が骸骨の鎧をまとい、虹色に光る剣を持ち王国軍の先頭にいる。

ポリー(王国軍指揮官)「全軍停止！」

立ち止まる緑色の王国軍 200。縦長に伸びている。

マサ「は？逃げ火が見えないのか？帰っちまうぞ」

帝国城の前には沢山の逃げ火の光の柱が立ち上がっている。

空の光るゲートが三日月型に狭くなり細い光が差している。

マサ「急げ！終わっちまう、逃がすな」

マサを含むひで達、王国軍は橋を渡り始める。

ポリー(王国軍指揮官)「待て！まとまって！」

ポリーは白馬を降りると、馬を帰し橋へ向かう。

○ゲーム内・帝国城内部・コア部屋(夜) * *

部屋の中心にある巨大なコアから赤い光があふれている。

大盾を持った女盾ミラが空中へ現れる。光る全身装備で

落下する。ミラは泉へ入る。

運営キャラが城の上の梁からミラを見ている。

社長(帝国指揮官)が見張り塔からコアのそばへ階段で降りてくる。

社長「その盾、ミラ！パーティに入れ」

社長が泉のミラへ近づくがミラは無視して出ていこうとする。

社長は立ちふさがる。

遠方で見っていた運営キャラの背中に無数の触手が出てくる。

運営キャラは触手で移動して、盾ミラと社長の間に落下する。

社長「なんだおまえ」

運営ちゃん「セクハラ禁止！」

運営は触手を社長へ近づける

社長「諦めないぞ。邪魔するな」

社長はミラの前でJ(ジェスチャー)土下座。

社長「新人の指揮官を助けると思って、ウチのパーティに」

ミラは出て行こうとする。

社長「ミラ！頼むパーティに入れ、クレリック(回復役)も今呼ぶから」

ミラは止まる。

社長がミラの頭に手をかざす。

ミラの肩にIB(インペリアルブレイブ)のマークが出る。

社長「ちょっと待ってな、おっそいなあ、どうでもいいだろ、メイクとか」

秘書が階段から降りてくる。

秘書「うちのクランに入れるんだ」

社長「当然だろ、さあ、ミラと行ってこい」

秘書はミラへ強化魔法をかける。

死体の状態で帝国兵が多数、コアの周りにいる。

戦士 B「だから遅いんだって」

クレリック A「初心者だからしょうがないじゃん」

戦士 B クレリック A の肩にクランマークはない。

社長「いや、待てミラ」

ミラと秘書は立ち止まる。

秘書「なんなのもう」

戦士 B「誰だよ勝手にクラン作ったやつ」

戦士 B の肩にIB(インペリアルブレイブ)のマークが出る。

社長「帝国指揮官だ」

戦士 B「なにすんだ、まだ」

社長「なんでもいい、今日からうちのメンバーだ」

クレリックの肩にIBのマークがつく。クレリックはJ土下座

戦士 B「強引だな、新人指揮官のくせに」

クレリック「よろ、何すれば、」

社長「俺も今日が初めてだ。知らん。ミラ、ミラについていけ」

クレリック「OK」

戦士 B「なに言ってる、うちのクレリックだぞ」

社長「あんたは草でも食って耐えろ、指揮官命令だ」

社長「先頭の虹色の光ってる剣にブチ当たれ、一緒に死んでこい」

ミラはJ(ジェスチャー)ガッツポーズ

ミラはクレリック2名とともに城外の特攻台に向かう。

○帝国城外・橋(夜) * *

帝国城下では王国軍と帝国軍が戦っている。

社長「いいか、盾を守るんだ。全軍突撃！」

ミラと専属チームが帝国城門わきの特攻台から飛び降りる。

ポリー「全軍撤退！橋の手前まで戻れ」

ミラを含む少数が、王国軍のど真ん中へ横から突撃する。

橋へ後退する王国軍を帝国軍の呪術師のツタと毒沼が襲う。

マサ「おまえら逃げるな」

ひで「今日は草を山ほど買ったから」

ひでは足が毒沼にはまって動けない。

王国指揮官ポリー「無駄な死は避ける」

王国のマサとひで達は帝国のミラを見つける。

マサ「よしあれにデッドリーをぶち当てる」

マサほか近づき、攻撃し、ミラは盾を使い、クレリックは回復する。

王国軍の戦士ら数人で殴り続ける。

マサ「しね！」

マサが赤く光り虹色の剣をミラに振り下ろす。

小さな爆発をして、ミラは片膝をつく。

マサ「化け物か！」

クレリックの魔法により回復したミラが盾でマサを突き飛ばす。

ひでは斧を振り下ろすが避けられて、盾で橋から突き飛ばされる。

ひでは橋の下の崖の段差に落ちる。

崖下の暗闇から声がある。何かのうめき声が聞こえる。

運営は城壁の上から戦場をみつめている。

生き残った王国軍は逃げて戦線は橋から遠くはなれていく。

黒馬に乗った社長と秘書がひでの落ちた崖の上でとまる。

秘書「ほら、みんないっちゃったよ、行かないと」

社長「変な声が聞こえる」

黒馬が橋の真ん中にくる。

ひで「殺して！早く！」

社長「お、こいつを倒すと名誉ポイントはいくつももらえるんだ？」

秘書「見た感じ、3ポイントってところね」

ひで「下のモンスターにやられるから、早く、殺して、経験値が減るから早く！」

秘書「わが帝国にとっては、何の影響もない」

社長「てかさ、経験値が減っても、働いた金で買えばいいだろ、逃げ灯を買ってないのか？」

「ついさっき、みんな使ってたやつ、あれ」

ひで「給料がまだ出ないから！貯金もないんで！」

社長「俺も！社長だけど、お金もってない！」

ひで「ふざけないで！あんたが今すぐ殺してくれれば！無料で済む、早く殺してくれ」

社長「残念、私は今日、始めたから、あんたの殺し方を知らん、武器も持ってない」

社長は馬で去っていく。

モンスターに足をひっぱられ谷底へ落ちるひで。

ひで「あああああー」

秘書 J(ジェスチャー)拍手

X X X

**** ひで通勤中悪夢@電車 ****

○現実・通勤電車内(朝)

2000年ごろの山手線車両内。超満員。

ひでがシルバーシートへ座り、寝ている。

ひでのとなりに老夫婦が座っている。老婆が杖を持っている。

乗客たちは誰もスマホをみていない。

ひで寝言「経験値を・・・稼がなきゃ」

ひでは汗びっしょりで口からヨダレがたれている。

老夫婦がひでを見ている。

ひで寝言「大損だ、殺してくれなかった」

心配そうにひでを見る老夫婦。

老婆「まだ若いのに」

駅に電車が止まる。

アナウンス「秋葉原駅～」

電車ドアが開いて、ひでが目を覚まし、杖を老婆から手にとり、

ひでは立ち上がる。足を引きずり上手く歩けない。

ドアが閉まり、ひでは杖をつきだして杖ごと体が挟まれる。

XXX

ひでが汗びっしょりで秋葉原中央通りを歩いている。

会社員であふれているが、誰もスマホを所持せず。

ラジオ会館など 2000 年の秋葉原の景色が広がっている。

＊ ＊ 会社員ひでの様子@オフィス ＊ ＊

○会社内・ひでの席(朝)

ひでが杖をついてオフィスへ入ってくる。

ひでは座ると本を読む。タイトル「VB プログラム上級編」

小太りの上司が女性アイドルグループの印刷されたウチワで仰ぎながらやってくる。

上司「今日は検査の日だって、先週言ったじゃん、まずいよ、遅刻は」

ひで「すいません」

上司「とりあえず、毎年同じだから、ここにずっと座っとく、うろうろしないで」

上司がひでの杖を机の見えやすい位置へ置きなおす。

上司「役人が来たらアピール、スマイルスマイル」

ひでがひきつった笑顔になる。上司はひでの肩を叩く。

○夢の中・会社内ひでの席(昼)

X X X

隣席の女 A がひでを見つめている。

隣席の女 A「ひでだけ、特別扱いはずるくない？」

ひでの隣の女がひでの席から杖を取ると天にかかげる。

ひで「あ、それは返してください」

隣席の女 A が呪文を唱えている。

ひでが下を見ると、膝まで沼に引き込まれている。

上司がやってくる。

ひでが見ると、上司は虹色の光る剣を持っている。

ひで「それはアキバで買ったんですか？」

上司「セットでこれも」

上司がマサの骸骨の兜をかぶり、剣を振りかぶる。

ひではキーボードを手にとり、防御に構える。

上司「デッドリークラッシュ！」

上司が赤く光り、剣を振り下ろす。

○現実・会社内・ひでの席(昼)

ひではキーボードを手で持ちあげたまま、オフィスで目を覚ます。

ひでの口からヨダレがたれている。

隣席の女 A は啞然としている。

隣席の男 B は仕出し弁当を食べ終え机で伏せて寝ている。

隣席の女 A「大丈夫？」

ひで「すみません」

ひではキーボードの線が切れているのに気づく。

隣席の男 B は起き上がる。

隣席の男 B「もう無理すんな帰れ」

ひで「今日は役所の検査があるから自分がいないと」

隣席の男 B「どうせここまで見に来ないよ、クソ役人ども」

隣席の女 A 小声「これ見て、相談とかあるよ」

A はメンタルケアのしおりを机から出してひでに差し出す。

隣席の男 B「俺、駅まで送るか？もう日の光を浴びたい」

ひで「いやちょっと自分、寝不足で、顔洗って」

ひでは机から錠剤の薬をとってポケットへ入れる。

ひでは茶色い杖を机のわきから取る。

ひでは机の上の仕出し弁当の容器を手にとって、

杖をついて部屋を出ていく。

○現実・会社・給湯室(昼)

ひで「すみません」、「すみません」

ひでは杖で足を引きずり狭い廊下で社員と行き違うと、謝る。

女の声「でさー、ありえない？」

給湯室に近づくと杖の音に気付いて、

盛り上がっていた給湯室の中の声が静まり返る。

ひで「すみません」

ひでを避ける女性たち。

ひでは給湯室に入るとゴミ箱へ半分以上食べ残した仕出し弁当を捨てる。

ゴミ箱には他の社員が捨てた仕出し弁当の中身が大量に捨てられている。

○現実・会社・喫煙室(夕)

上司と役人と 30 代の女性事務員達が話している。

半数はタバコを吸っている。

役人「またあのお店に連れてってえー」

上司「いやーあそこはもう無理！」

ひでが部屋へ入ってきて会釈して自販機へ。

役人はじっと女性事務員の胸を見る。

女性事務員「やだ、セクハラでしょ今の」

ひでは買ったコーヒで錠剤を飲もうとするが、錠剤を床へ落としてしまう。

転がった錠剤は自販機の下へ入ってしまう。

役人「はあ、検査の点数下げちゃおうっかなー」

役人は手帳に物を書くフリをする。

上司「プロの店に行かないとだめ？ウチのアイドル達が相手じゃ」

役人は女性事務員を見ると目をそらし、ひでを見る。

ひでは自販機の下へ手を伸ばしている。

ひでは拾い上げたホコリまみれの錠剤をフーフーしてそれを飲む。

女性事務員はそれを見て、顔を引きつらせる。手を挙げる。

女性事務員「ハイ！去年の、エビの鉄板焼きのお店はどうでしょうか！」

役人は陰しい表情をしている。

上司「新人の女の子も連れてきます！10人はいますよ」

上司が役人の顔を見ると、役人は深くうなづく。

役人「よし。あとは、検査だが、障害者雇用の対応も完璧だ」

役人は、まだ床にうつ伏せになっているひでを見ている。

ひでは錠剤の奥に、生のエビを見つける。手が届きそうだが届かない。

ひで「生だ。焼けてない、なぜ」

女性事務員「ホラ！エビだよ」

上司「エビ？」

ひでが床を見るとエビは消えている。

ひでは起き上がりよろめいて自販機にぶつかる。

役人「検査は合格！満点はあやしいから去年プラス1点」

一同「ありがとうございますー」

笑い声であふれる喫煙室。

ひでは盛り上がる部屋から杖をついて出ていく。

X X X

○会社・ひでの席(夕)

ひでは自席で座っている。時計は17時である。

PCで去年のメールをコピーペーストしている。

画面の表示「一部の検査項目に指摘があった。去年の検査実績を活用し、定例監査に合格した」と表示されている。

ひでは「さらに、本年度から新規採用の人員を追加して丁寧に説明し」を書き加える。

ひでは隣の男性社員へ顔を向ける。

ひで「何かありますか？」

隣席の男B「あー特にない」

ひでは机上のプログラムの本を片付ける。

ひで「お先に失礼します」

男女隣席AB「おつー」

ひでは誰も帰っていない中、ひとりで杖で立ち上がり、出ていく。

X X X

***コンビニ課金とクラン RC マスターマサ嫌な奴 * @夜:**

○コンビニ(夜)

コンビニに杖をついたひでが入ってきて、金券のカードを手に取りレジへ。

女性店員「3万円す」

ひではお金を女性店員に渡すと、女性店員が金券カードを渡す。

XXX

○現実・ひでの部屋・(夜)

ひではPCで金券カードの番号を入力している。

○ゲーム内・王国・RC 集合場所(夜)

戦争に向けて王国の各クランが広場に集まっている。

ひでが所属する王国クラン RC の集合場所で、ひでは列にならんでいる。

ワタリ「はい次のひと」

ひではワタリの前で動かない。

ワタリ「どうした？数は足りてるよな？」

ひで「なんか高い」

ワタリ「おいおい、運営から買うより安いぞ」

ひで「すいません 2 万円分で」

ワタリ「はいよ、次のひとー」

マサが広場中央で虹色に光る剣を天にかざしている。

マサ「おまえら今日こそ帝国城を落すぞ」

ワタリ「草、ケチるなよ、王国民限定で、中央市場より安い」

ひでは王国城門のワキを上り、特攻台から遠くを見る。

遠くに戦争の光が見える。

○ゲーム内・戦場・王国軍(夜)

ひではクランマスターのマサとクラン RC の仲間達と戦っている。

マサは光る剣で戦っている。ぶーが後ろからやってくる。

ぶー「パーティに空きはないっすか」

ヒカリン「うちの第3パーティに入って」

マサは草を食べながら戦っている。

ひでは薬草を取り出すしぐさをするが手は空。

ひではし後ろに下がり斧を持ったまま何もしないひで。

帝国軍はミラを最前線に出して、押してくる。

ひでは後ろへ逃げる。

マサ「おい、逃げるのか」

ひでは逃げ火を付け光の柱につつまれる。

ヒカリン「ドンマイだよー」

ひで「すいません」

○ゲーム内・王国RC集合場所(朝)

戦争後に、王国軍の各クランが集まっている。

ひでと RC メンバー達が座っている。

マサ「ひでは薬草が足りないとか、意識が低い」

ひで「すいません」

マサ「うちはクレリック(回復役)が少ないんだから」

ヒカリン「しょうがないでしょ。誰にでも忘れ物はあるよ」

マサ「あと、遅れてくるやつ！」

ぶー「機嫌悪いなー」

マサ「もうちょい早く来れないの？」

ぶー「残業っすよ」

ヒカリン「気にしないで」

ぶー「サンキューでした！またよろ、抜けるね」

ぶーは J(ジェスチャー)土下座して帰っていく。

マサ「なんか、オレが無茶を言ってるみたいな感じになってるけど」

ひで「自分、草をもっと」

ひで J(ジェスチャー)土下座する。

マサ「おっけー、とりあえず勝ちたいし、ヒカリンの負担もあるから」

ヒカリン「無理しないで」

ひで「了解」

一同「おつー」

ゲーム内のキャラが消えていく。

X X X

*** 社長がマサ=エース引き抜き * @中央広場 * * * * ***

○ゲーム内・中央市場(夜)

キャラクターは少ない。市場には店が並ぶ。

マサ(王国クラン RC マスター)が店を見ている。

社長(帝国指揮官)が背後にくる。

社長の声「正直めんどくさいだろ、クランマスターなんて」

マサの声「まあ、雑用つか、指揮官よりは楽」

社長の声「でも、もったいない。剣が泣いてるよ」

マサの声「一人で突っ込んでも死ぬだけだし、うまい奴も下手くそもいるし」

社長の声「そうそう、わかるよ、金かけない奴とかな」

マサの声「あんた、急にどうした」

社長の声「いや、うちのクランは違う、って言いたくて」

マサの声「急に人を増やしてるらしいな、あんたのクラン」

社長の声「まあカリスマってやつ」

マサの声「どうせ誰でもいいから、集めてるだけだろ、それじゃ勝てないね」

社長の声「いや、入る時にハッキリと区別するしね」

マサの声「二軍でも作ったのか」

社長の声「いいや、その時に、最も強い軍を組織する。そして、その中でも、

頂点にいる選抜かれたやつだけで指揮官のパーティを組む。最高だろ？」

マサの声「悪くない」

社長の声「金をつぎ込んだ奴らは、自分のやることに集中できる。

ハイレベルな仲間しかいないわけだ。自分のやるべきことに集中して、

それに応じた活躍ができる」

マサの声「雑用もしなくていい？」

社長の声「雑用どころか、アイテムの管理や戦争報酬の配分まで、

全部秘書が管理する。それだけじゃない、会計士もいる。金を払って戦争に出る。

そして王国民をぶち殺す」

マサの声「ふ——ん。あんたはなんでそこまでするの」

社長の声「夢がある。それを実現する。あんたの勢いが必要かなと」

マサの声「仲良くダラダラと遊んでるだけってのも」

社長の声「考えておいてくれ、帝国入りを」

マサの声「声かけは感謝する」

XXX

○現実のひでの一日(朝→夜)

朝日が秋葉原を照らしている。

早送りでひでが通勤→会社→退社コンビニ課金→ゲーム内の戦争へ

*** RCで戦争と崩壊の兆し * @RC待機所 * * * * ***

○ゲーム内・王国RC集合場所(夜)

戦争後に王国の各クランが集まっている。

ぶー「今日も貧乏人なりに貢献できた」

ヒカリン「ぶーちゃんは反射神経が凄いねー」

マサ「ぶーはもっと課金したら、もっと強くなれる」

ぶー「それより先に部屋にエアコンを付けたい」

ヒカリン「つけなくても平気な人っているらしいよ」

マサ「報酬を配るぞ」

一列にならび報奨金をワタリから受け取る RC メンバーたち。

RC 第2PT メンバーA 声「俺らの第2PT はクレリックの回復なし」

RC 第2PT メンバーB 声「もらう金よりも使った金の方が高い」

RC 第2PT メンバーA 声「斧戦士の代わりにクレリックをスカウトしろよ」

ひでは集合場所から離れた場所で斧を振っている。

メンバーA「マサがクレリックをやれば第2PT も安定するのに」

ワタリ「おい、クランマスターに失礼だろ」

マサが配給の列に近づいてくる。

マサ「俺がどれだけこれに金を使ったかわかるか」

マサが虹色に光る剣をかざす。

マサ「俺が戦士で出るのが当たり前だろ」

第2PT メンバーA と B はJ拍手と土下座。

マサ「それにパーティの編成とか、クランの仕事も大変なんだぞ、

それに、おまえらはクラン倉庫の装備も借りてるんだろ？」

マサ「おまえらこそクレリック装備を借りてやったらどうなんだ？」

第2PT メンバーAB 戦士はJ拍手と土下座。

ぶー「よし、ひで、俺らは現実で頑張って草を買う金を稼ごう」

ヒカリン「過労死しないように」

ひでとぶーのキャラはJガッツポーズで消えていく。

X X X

*** RC消滅 * * @戦争前の夜 * ***

○現実・ひでの一日(朝→夜)

早送り(通勤→会社→退社コンビニ課金→戦争)

○ゲーム内・王国RC集合場所(夜)

ひでがクランRCの集合場所に入ってくる。

ヒカリンが集合場所に一人で座っている。

クレリックの肩の装備から RC のマークが消えている。

ひで「クランのマークがない」

ひでの装備からも RC のマークが消えている。

ヒカリン「そう、そして誰もいない」

ひで「自分がクランマスターに聞いてみる」

ヒカリン「無駄だよ、マサの携帯にかけたけど出なかった」

ひで「マスターが行方不明。クランはもう終わり？」

ヒカリン「わかんない。クランの倉庫も空っぽ」

ヒカリン「マスターも被害にあったとか。ウワサだけど」

ひで「被害？盗まれたって事？ヒカリンの倉庫の装備は？」

ヒカリン「無くなってた」

沈黙

ひで「どうしよう、犯人見つかるよ、警察にも相談」

ヒカリン「電話で警察に聞いてみたけど、全然相手にしてくれなかった」

ひで「なんで」

ヒカリン「装備を盗まれたって言ったら、データでしょって」

ひで「何十万円もする」

ヒカリン「それに、なんで貸したの？って言われて」

ひで「そんな」

ヒカリン「家族でもないのに」

沈黙が続く。

ヒカリン「でもさ、一番大事な装備は、着てたから盗まれなかった」

ヒカリンは立ちあがると一回転する。クレリック装備はわずかに光っている。

沈黙が続く。

ヒカリン「二人じゃ戦争も出れないし、狩りにでも行く？」

ひで「ちょっとそれは・・・」

沈黙が続く。

ヒカリン「今ね、特大プリン作ってる」

ひで「どのぐらいの」

ヒカリン「1キロぐらい」

ひで「全部ひとりで食べるの？」

ヒカリン「そだよー、てか、ひでって、結構失礼な事言うよね」

ひで「すいません」

ヒカリン「なんで敬語」

沈黙が続く

ヒカリンは全身の装備を外し初期装備になる。

ひでの頭上に譲渡マークが出る。

ひで「なにしてるの」

ヒカリン「全部あげる」

ひで「嫌だよ」

ヒカリン「ひでなら上手く使えるよ」

沈黙が続く。

ひで「もらえないよ、それに自分にはクレリックはできない」

ヒカリン「そうかなあ、性格的に向いていると思うよ」

沈黙が続く。

ヒカリン「知り合いにあいさつして落ちるね」

沈黙が続く。

ひで「おつ」

ヒカリンのキャラが完全に消える。

ひで「ありがとう・・・今まで」

X X X

*** RC 消滅と王国の衰退開始 * * @RC 待機所 * ***

○現実・ひでの一日(朝→夜)

早送りで通勤→会社→退社コンビニ課金→戦争

○ゲーム内・王国RC集合場所(夜)

ひでが王国クラン RC の集合場所にくるが誰もいない。

他クランの PT が完成し、戦争準備をしている。

ひでは中央市場で薬草を買い込み、戦場へ移動する。

ひではのらねこ団のパーティに入っているぶーちゃんを見つける。

ぶー「お、ひで、こっちはパーティ満員だ。そっちに入れてもらえよ」

ぶーがJ土下座した方を見ると、2人のクレリックがいる。

他無所属女 B「あいてますよーどうぞー」

ひで「すいません、薬草いっぱい持ってます」

他無所属女 B「おおー」

B は J 拍手

他無所属女 A「さすが元 RC は気合が入っている」

ひで「いや自分は全然、ダメダメで」

他無所属女 B「まって、今、早速、逆ナンしてる？」

他無所属女 A「死語だって、年がバレる」

他無所属女 B「ひでちゃんもドン引きしてるからやめようよ」

A は J 土下座

ひで「あ、大丈夫です」

X X X

○ゲーム内・戦争中・中央砂漠(夜)

帝国 150 王国 80 砂漠の中央で戦争をしている。

虹色の剣をもった帝国の戦士がミラと共に戦っている。

ミラの虹色に光る盾、ワタリ、秘書、等のIBを中心に、帝国軍が王国軍を押している。

全員の肩にインペリアルブレイブ(IB)の剣と盾のクランマークが見える。

ポリー(王国軍指揮官)「全軍撤退！」

王国軍は 50 に減り、敗走する。

○ゲーム内・戦争後・王国内広場(夜)

王国広場に各クランが集まっている。

ひでら王国軍は以前より8割ほどに減っている。

他無所属女 B「お疲れ様ー負けちゃったねー」

他無所属女 A「帝国のインペリアルブレイブ(IB)ってクラン、

出来たばかりなのに強すぎじゃない？」

他無所属女 B「あの虹色剣はひでが居たクランのマスターでしょ」

他無所属女 A「元仲間にぶち殺されるってイヤな感じー」

ひでJ土下座。

他無所属女 A「あー、とにかくさ、ひでっちお疲れ！またあそぼ」

女A、J拍手、女B、J土下座

ひで「またよろ。ありがとうございました」

ぶーちゃんが向かってくる。

ぶーの鎧の肩に猫のマークがある。

他無所属女 B「あーもう一人、元 RC が来たー」

他無所属女 A「ぶーちゃん、おひさー」

ぶーJガッツポーズ

ぶー「おいーす」

他無所属女 A、Jガッツポーズ

他無所属女 B「ぶーちゃん、のらねこ団に入った」

他無所属女A、Bの肩の装備にはクランマークがない。

ぶー「二人はいつも無所属だね、なんでクランに入らない？」

他無所属女 A「うちらは適当だから、クランって面倒」

他無所属女 B「そそ、気楽だし。でもお誘いはありがとう」

頭に王冠を付けた、ポリー(王国指揮官)がやってくる。

他無所属女 B「のらねこ団って、夫婦でクランやってるんでしょ？」

他無所属女 A「うらやましい」

他無所属女 B「でもイライラしそう」

他無所属女 A「そんな事ないでしょー、私もカップルでイチャイチャプレイしたいー！」

他無所属女 B「ギャーいやらしい」

他クランやメンバーも集まってきて、座る。

ポリーは広場の真ん中の台に乗る。

ポリー(王国指揮官)「今日も王国民の団結力で城は守れました、

ありがとう！これからも頑張りましょう！クランマスターは分配よろしく」

ポリーの前にキドや他クランマスターが10人程度並ぶ。

報酬を受け取ると、マスターはそれぞれの集合場所へ帰っていく。

ひでは元 RC の集合場所に行くが誰もいない。

ひでは物陰に入り、ひでのキャラが消えていく。

* ひで@夜コンビニ *

○現実のひでの一日(朝→夜)

早送りで通勤→会社→退社コンビニまで

○現実・コンビニ(夜)

ひでは課金用のカードを手にとって、レジに持っていく。

女性店員「3万円です」

ひで「あっ！」

女性店員がビクとする。

ひで「自分、くせで、間違ったんで、戻してください」

女性店員は笑顔でカードを片付ける。

女性店員「はい、取り消しますねー」

* ひでと田舎の母、ぶーにのらねこ団に誘われる * *

○現実・ひでの部屋・日曜日(昼)

ひでがコタツでサバ缶(青森名産)を食べている。

ひでは携帯で話をしている。

ひで「うん、うまいって、友達もいる」

杖で立ち上がると部屋の隅のダンボールを開け、

ひで「いい人たち、心配ない」

母からの手紙を避けてリンゴ(青森名産)を一つ取る。

携帯から母の津軽弁の声が聞こえる。

ひで「うん、仕事が忙しいから」

ひではリンゴを持ったままパソコンの前に移動する。

ひで「もう切るよ、今度帰るから」

ひでは携帯を切り、悩んだ後にゲームを始める。

○ゲーム内・王国広場(昼)

ひでは RC 集合場所に座っている。誰も居ない。

まわりには王国クランごとに集団ができています。

○ゲーム内・草原(昼)

ひでは斧を振ったり、ギクシャクとした連続技をしている。

ぶーが向かってくる。装備の肩にのらねこ団のマークはない。

ぶー「おう、調子どう」

ひで「気持ちに乗らない、王国も調子が悪い」

ぶー「適当にクラン無所属で作ったパーティじゃ活躍は難しい」

ひで「一人で戦争へ行っても、殺されるだけだし」

ぶー「最前線でクレリックなしの戦士は地獄よな」

ひで「ヒカリンさんも帝国へ行ったのかな」

ぶー「どうだろうね、あんな強いクレリックは今のところ、帝国に居ないと思うよ。」

それより、一回、木こりしてみたい、斧貸してよ」

ぶーが流れるような動きで振り回す。

ひではじっとしている。

ぶー「ええやん」

ぶーの斧がひでに渡る

ぶー「てかさ、なんで斧を強化したの？」

ひで「ワタリさんが買わないかって」

ぶー「なるほど」

ひで「自分にだけ強化済のを特別に安くしてくれた」

ぶーは剣で連続技をキレイに舞う。

ひで「上手い！」

ぶー「武器はあるんだから後はクラン」

ひで「この前、ぶーさん、のらねこ団に加入してたよね？」

ぶー「お試しに入ってたけど、RC よりぬるい感じ」

ひでがぶーの装備を見るとのらねこマークは消えている。

ひで「もう、やめたんだ」

ぶー「いつでも、好きな時に出入りしていいって」

ひで「変わったクランだ」

ぶー「今からひでも入る？」

沈黙が続く。

ぶー「合わなければすぐ抜ければいいじゃん、紹介するよ」

ぶー「ガッツポーズ」

ひで「自分は迷惑だけはかけないように、でもお金が」

ぶー「俺なんかテキトーだよ、たまに嫌味言われるけど」

ひで「とりあえず、一緒に入ってみよう」

ぶー「OK」

ひではぶーと一緒に城から外へ向かって歩き出す。

*** ひでがのらねこ団へ加入 * * 戦争前@草原 * * ***

○ゲーム内・王国城前草原(夕)

王国クラン、のらねこ団がウサギと草原にいる。

居るメンバーはレイア、マユ、やま、ケン

レイア「馬がほしい！」

マユ「じゅうたんが現実的。直接地面に座るのは嫌」

マユは草むらから立ち上がる。

やま「そんなもんいらん、分厚いケツがあるからな」

レイア「うるさい！」

キドのキャラが湧いてくる。

キド「またその話か」

ケン「宝クジが当たったら、最強の武器をリアルマネートレードで買う」

やま「アホか、運営に食われてしまいや、わいは帝国兵に嫌がらせができればそれでええ」

キド「いつの日か、屋根のある場所ですごしたい」

ぶーとひでがやって来る。

ひで「ちわ」

一同「よろ」

ぶー「土下座」

レイア「ぶーちゃん入る？」

ぶー「ひでも一緒に」

ぶーとひでの鎧にのらねこ団のマークが浮き出る。

マユ「ひでさん？ひでくん？」

ひで「おまかせします」

キド「おー礼儀正しいな」

ひで「そんな事ないです」

やま「そんなん最初だけや」

ケン「元RCでしょ？ガチで課金してるよね？」

ひで「自分はそんなに」

ケン「斧使いとは珍しい、プラスいくつそれ？」

レイア「じゃあ、ひでっちで決まり」

ひで「ワタリって人が安いからって5万で」

ケン「ワタリか……まあ……いいんじゃない」

やま「なあ、ひでっちよ、帝国IBのエースってのはおまんのクランにいたマサなんやろ」

ひで「たぶん。同じ装備だし」

やま「引き抜きかい、えげつな」

マユ「もういいよ、なんで、やまさんはやまさんなの？差別じゃん？」

やまちゃんとか、やまっち、やまキュンでもいいよね」

やま「気持ち悪いわ、おっさんやぞ」

レイア「なんで？高校生かもしれん」

やま「声でじじいってわかるわ！おっさんヴォイス」

ケン は立ち上がる。

ケン「鍛冶屋にちょっと行ってくる」

一同「いてら」

キド「破産するなよ、お金は貸さないからな」

マユ「貸せない、でしょ」

去っていくケン。」ガッツポーズ。

X X X